

## 第10回 火災防護検討会 議事録

1. 日時 平成18年12月1日(金) 13:30~16:00
2. 場所 (社)電気倶楽部10階 第3会議室
3. 出席者(敬称略,五十音順)  
出席委員:吉永副主査(関西電力),伊東(東京電力),江島(九州電力),角谷(三菱重工業),  
後藤(原子力安全基盤機構),平(東芝),田中(日本原子力技術協会),西田(北陸  
電力),藤森(電源開発),三原(四国電力),宮田(北海道電力)(11名)  
代理委員:奈良間(中部電力・小山代理),荒木(中国電力・岸良代理),加賀谷(日立製作所・  
熊坂代理)(3名)  
欠席委員:阿部(東北電力),長橋(日本原電)(2名)  
常時参加者:宇田川,正木(東芝),佐藤(中部電力)(3名)  
事務局:中島
4. 配布資料  
資料No.10-1 原子力規格委員会 安全設計分科会 火災防護検討会 委員名簿(案)  
資料No.10-2 第9回 火災防護検討会 議事録(案)  
資料No.10-3-1 第16回 基本方針策定タスク 議事録  
資料No.10-3-2 第17回 基本方針策定タスク 議事録(案)  
資料No.10-4 火災防護検討会活動(原子力発電所の火災防護指針 JEAG4607-1999 改訂)  
計画表(案)  
資料No.10-5 JEAG4607-200X 草案(解説と本文の仕分け案)  
資料No.10-6 火災防護指針海外火災事例検討シート集  
資料No.10-7 火災防護指針国内火災事例検討シート/廃棄物処理建屋での火災について  
資料No.10-8 海外規格類の調査・検討(IEEE384)
5. 議事
  - (1) 委員名簿の確認  
事務局より,岸良委員(中国電力)の代理として荒木氏,及び熊坂委員(日立)の代理として加賀  
谷氏の出席について報告があり,承認された。また,事務局より,資料No.10-1に基づき,新委員候補  
に中部電力 奈良間氏並びに 常時参加者に三菱重工業 宇田川氏及び東芝 正木氏を登録した旨報告が  
あった。
  - (2) 検討会主査(代理)の選任  
事務局より,中部電力 小山主査退任に伴う主査代理の選任について提案があり,吉永委員より,中  
部電力 奈良間氏の推薦があった。これについて,挙手による決議を行った結果,賛成14名,反対0名  
で決議された。  
なお,奈良間氏については,次回安全設計分科会で新委員承認後,正式に主査をお願いすることと  
した。

### (3) 前回議事録確認

事務局より、資料No.10-2に基づき、第9回 火災防護検討会 議事録(案)(事前に配布しコメントを反映済み)の説明があり、原案どおり承認された。また、事務局より、前回議事録のフォロー状況及び第17回基本方針策定タスクの審議状況について、以下のとおり報告があった。

#### 1) 既設炉への遡及適合及び代替策の記載要否について

- a. 前回議事で“規格改定案の作成方針”について議論されたが、“規格の中に既設炉への遡及適合及び代替策(救済措置事項)を記載すべきか”についてホールドとなっていた。
- b. その後、原子力規格委員会及び基本方針策定タスクで議論した結果、“今後、制改定する規格については、各分科会が(規格の策定段階で)既設炉への影響を十分考慮していくこととし、今後は遡及適合について、技術評価書の中に明記してもらうように働きかける”こととした。
- c. 然るに、今後改定する火災防護指針(以下、JEAG4607)は、新設炉を対象に整備することでよい。

#### 2) 規格の体系、構成について

- a. 日本電気協会(原子力規格委員会)の規格体系(JEAC, JEAG)のあるべき姿について、基本方針策定タスクとして、基本方針案を取り纏める作業を進めている。
- b. 規格の構成(本文、解説等)については、規格策定基本方針(付則-3 規格作成手引き)に基づき作業を進めていただくが、現在、基本方針策定タスクで各分科会の策定状況を踏まえて議論中である。
- c. 基本方針策定タスクの動向を見ながら作業を進めていく必要があるが、当面は規格策定段階の個別の問題については、その都度、基本方針策定タスクで問題提起することとなる。

### (4) 原子力発電所の火災防護指針(JEAG4607-1999)改定検討について

#### 1) 指針改定の検討状況とスケジュールについて

奈良間氏より、資料No.10-2に基づき、火災防護検討会活動計画案について説明があり、引き続き、平成19年度改定を目指して、作業を進めることとした。

#### 2) これまでの検討で抽出された課題の整理・反映要否の検討結果について

角谷委員、正木常時参加者及び加賀谷代理委員より、資料No.10-6に基づき、2000年以降の海外火災事例のうち、JEAG4607への反映要否の検討結果について説明があった。

これに関する意見は以下のとおりであった。

- ・ 海外火災事例は、本日ご説明いただいた内容で全てなのか。原子力規格委員会資料No.20.7「火災防護管理面の規格の整備について」(平成18年5月18日付)の中で、米国における主要火災事例(別紙-3)として、“水消火”(電気品火災に対する消火作業への水の使用)に係わる記載があるが、今回は抽出・検討されていない。本件は、資料の中で、要因が“運用管理面”として分類されており、基本的にはJEAG4607に反映は不要と考えるが、設備設計面として考慮不要であるという検討はなされたのか。

本件について設備設計面からの検討は実施していない。現行のJEAG4607には水消火に関する記載は無いが、“消火活動が可能な設備を設けること”の記載があるので、そのように設計されていると認識している。

以上の意見を踏まえて、以下のとおり進めることとした。

火災事例の最新情報を確認する。(JNES情報提供)

“運用管理面”として分類された事例についても、JEAG4607への反映要否について精査する。

運用管理面の指針検討箇所(運転・保守分科会 防火管理検討会)との情報共有を図る。

3) 国内火災事例検討について

吉永委員より、資料 No.10-2 に基づき、国内火災事例(廃棄物処理建屋での火災)について、JEAG4607への反映要否の検討結果について報告があった。本事象については、設計上考慮する事項ではないとした。

4) 改定素案の検討状況(解説と本文の仕分け案)について

角谷委員より、資料 No.10-2 に基づき、JEAG4607 草案について、修正・新規追加分・コメント対応箇所について、概略説明があった。

なお、草案については、引き続きコメントを求めることとした。

5) JEAG4607-1999 に引用されている海外規格類の調査・検討(調査対象規格:IEEE384)について

加賀谷代理委員より、資料 No.10-2 に基づき、JEAG4607-1999 に引用されている海外規格類の調査状況について説明があった。

これに関する意見は以下のとおりであった。

- ・ 調査頂いた内容で、具体的に JEAG4607 に反映した場合のメリットはあるのか。  
現時点で確認できている範囲で資料を纏めた。IEEE での検討内容や NRC 見解の追加調査が必要であるが、その結果を踏まえて、最終的な JEAG 反映要否を判断したいと思っている。

6. その他

次回の火災防護検討会については、別途調整することとした。

以上